

混迷を続ける日本経済。この厳しい情勢下において、第一線で活躍する経営者は、どのような視点で、どのような想いで企業経営を行なっているのかを探る。



医薬品・工業薬品の卸小売として創業

前身は1900年創業の「石原永壽堂」。医薬品・工業薬品卸小売から、その歴史をスタートさせた。「神戸臨海部の工業地帯が着実に成長を遂げつつあった頃。創業者は近隣の重工業系メーカーに出入りし、医薬品・工業薬

品を商っていたのだらうと思います」と、代表取締役社長の竹森莞爾氏は推察する。

戦後、業容拡大を目指して自ら製品製造に着手した。第1弾は1953年に発売した、楽器・家具用の液状つや出し液「ユニコン」。現在に受け継がれる自社ケミカル製品「ユニコン」ブランドの誕生だった。その後、楽器用

開発力を磨き新技術を生み出し続けます

石原薬品株式会社
代表取締役社長

たけ もり かん じ
竹森 莞爾 氏

【プロフィール】
1945年生まれ。1968年大阪経済大学を卒業後、石原薬品株式会社入社。取締役第一営業部長、常務取締役などを経て、1997年6月から現職。日本オートケミカル工業会副理事長、神戸商工会議所化学部会長などを務める

から転じてオートバイボディ向けワックスを製造・販売。やがて、モーターリゼーションの波に乗って、国産初のクリーム状自動車専用つや出し剤を全国発売し、多くの愛用者を獲得した。

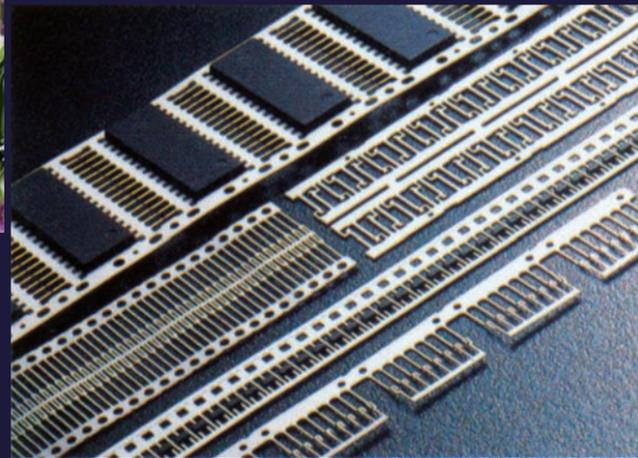
また、1960年代に入ると、重工業メーカーからの要請で溶接薬品も開発。溶接時に熔融された金属が火花となって散り、被溶接物体に付着するのを防止する「スパッター付着防止剤」を発売した。



昭和初期の「石原永壽堂」。少しずつ業態を変えながらも、創業以来変わらぬ場所で歴史を刻んできた



環境にやさしい「鉛フリーめっき」。早い時期から環境配慮製品を世に送り出したことが、同社の優位性を高めた



電子部品用外装めっき液で国内トップシェア

「電子関連」「自動車用品」「工業薬品」の3つの分野で、「金属表面処理剤および機器等」「電子材料」「自動車用化学製品等」「工業薬品」の4つの事業を展開する。

「1つひとつの事業を、経営の柱としてバランスよく展開していることが、当社の特長であり強み」と竹森氏。景気の動向に左右されない「全天候型経営」を実践している。

4事業の中でもとりわけ業績をけん引しているのが、金属表面処理剤。電子部品用外装めっき液に大きな強みを持つ。半導体などの電子部品は、プリント基板との接合部分に主に銅材が使われており、その接合部分には、プリント基板との接合を容易にするために、はんだめっきが施される。同社の主力製品「スズはんだめっき用めっき液」に対する市場評価は高く、国内において実に約70%のシェアを誇る。

さらに、この分野では、環境にやさしい「鉛フリー」のはんだめっき液も提供している。1970年代、弱電業界は、

製品の急激な需要増という絶好の機会を得る一方で、重金属による公害発生や金属資源の不足に直面する事態に見舞われていた。そこに、重金属を含まない同社のスズめっきが登場し、ユーザーから高い評価を得るようになった。

近年、電子機器の小型化はますます進んでおり、自社の電子部品用外装めっき液が使われる電子部品とプリント基板の接合面も小型化している。接合部分が小さくなくても、少量のめっき液で機能性を維持させなくてはならない。「当社のめっき液は少量でも素早く、強固に結合させる接合性に優れており、多くのお客さまに支持されています」と自信をのぞかせる。

アフターサービス体制も充実させている。専門のサービス要員を配置し、顧客に販売しためっき液の定期的な分析を行い、めっき皮膜の評価や添加剤の投入量、タイミングなどを的確にアドバイスし、顧客の品質向上に寄与している。

こうしたサービスの過程でさまざまな顧客の声を収集し、新製品開発現

場にフィードバック。「常にお客さまのニーズをとらえた新しい製品を世に送り出していくために、時間やコストがかかっても、決してなくせないプロセスです」という。

研究開発を支える「三つの開発」

経営理念は「三つの開発」。それは「自己開発」「商品開発」「市場開発」を意味する。特に重要視しているのが、自己開発。「どんなことも、やはり人間のすること。ときに失敗もすれば、いろいろなことがあるでしょう。しかし、失敗を起こさないように、それぞれが自らの知識を増やし、能力を高めていかなければなりません」と竹森氏は話す。そのために、会社として福利厚生を充実させ、自己開発支援も行っている。

経営理念「三つの開発」を具現化するため、研究開発部門を徹底して強化。メーカー部門の売上高の約10%を研究開発費とし、全社員の3分の1を研究開発部門に配属している。

各事業部門に分散している情報や技術を、すべて研究開発部門に集約し、開発スタッフはより自由に、柔軟に、さまざまな角度から情報を分析し、第5、第6の事業の柱を誕生させるべく研究開発に取り組んでいる。

好調の電子関連分野に経営資源を集中

バランスよく事業展開しながらも、将来的に伸びが期待される分野に積極投資していく経営方針を打ち出している。今、最も力を注いでいるのが電子関連分野。同分野で、これまで研究開発を進めてきた技術が実用段階に来ている。

銅ナノインクの製造と、これを用いてプリント基板に電子回路を書く技術。従来のエッチングに比べ、銅の使用量も少なく、大掛かりな設備が不

要になるという。銅ナノインクは医療用センサーや有機EL、発光ダイオード、太陽電池などにも応用が期待できるという、将来的に事業の柱に育てる考えだ。

同社は2012年、西区の神戸ハイテクパークで自社工場の建設を始める。ここで、銅ナノインク関連の研究を進める計画で、「3年程度で事業化を目指したい」という。

新たな取り組みで海外市場を制覇する

日本の製造企業の海外進出が進んだことに伴い、同社も2005年、上海に拠点を開設。中国や東南アジアに進出している日系企業に加え、現地企業、欧米からの進出企業にも販路を拡大している。「国内、海外と線引きできないグローバル化の時代。新

しい製品技術を引っ提げて、海外の新たな顧客獲得にも努めたい」と話し、近くタイに駐在員事務所を開設する。そこを拠点にASEAN地域での一層のビジネス拡大を目指す。

海外市場開拓においても、根幹となるのはやはり「人」。中国・ASEAN地域でのビジネスで必須の英語や中国語を社員に習得させるべく、ASEAN地域への留学制度をスタートさせる方針だ。

依然として経営環境が厳しい中、「組織として確かな目標を持ち、全員一致で目標に向かって努力することが重要」と考える。「足元を見てもいい状況でなく、横を向いてもいい話などない状態。ならば、前を向いて目標に向かって進んで行くしかない。前進あるのみです」。確かな技術力と人材重視の経営を武器に、挑戦は続く。

Data
石原薬品株式会社
事業内容：金属表面処理剤及び機器等、電子材料、自動車用化学製品等、工業薬品
創業：1900年4月
所在地：神戸市兵庫区西柳原町5-26
電話：078-681-4801
<http://www.unicon.co.jp/>



現在の本社



滋賀県の自社工場。近く神戸に建設する新工場と合わせて、生産拠点は2カ所に